

# すすめよう！男女共同参画

問合せ先

役場企画課企画調整係  
(内線212)

## ◆マミートラック

女性に限らず、仕事をしている社会人には昇給や昇進などが多い出世コース（ファストトラック）とそうではないコース（マミートラック）の2種類があります。

マミートラックとは、出産を終えた女性が仕事に復帰しても単調な業務しか与えられなかったり、育児のために「残業できない」「休むことが多い」などの理由で、昇進に縁のないコースに乗ってしまうことを意味する言葉です。

マミートラックは競技用のトラックに由来しており、いったんファストトラックから外れマミートラックに乗ってしまうと、トラックの中をグルグルと走らされ、ずっと抜け出せないと言われていました。このような待遇を本人の意思に反して受けることで、仕事に対する意欲が下がり、やりがいを見出せずに退職という選択をしてしまう女性も少なくありません。NHKがインターネットで行なったアンケートによれば、出産後に復職した人の4人に1人がマミートラックを経験したことがあると答えています。

最近では産休や育休、さらには時短勤務といった制度を利用する女性が増えてきています。制度の整備や利用は良いことですが、それが復帰後の仕事の内

容や昇進、待遇に支障を来しているという指摘もあります。制度の整備に伴ってマミートラックは今後も増加する可能性があります。

女性の就労希望の支援は、産休や育休などの制度的な整備に加え、マミートラックからファストトラックへ移行できる人事制度の設計が必要ですが、そのほかにもさまざまな対策が考えられます。

まず、男性、女性ともに職場全体の産休・育休に対する理解を深めることが必要です。そのためには、女性管理職を増やすことや上司、同僚、後輩と普段からコミュニケーションを図ることが有効です。

また、仕事の効率化による残業の削減や自分がいなくても業務に支障を来さない仕組みを作ることも必要です。

次に、会社として情報通信技術を活用したテレワークなどで自宅勤務ができる仕組みの導入や、福利厚生として保育施設やベビーシッター制度を会社単位、あるいは企業連合で作ることも考えられます。

会社外の部分では、まず、夫および夫の職場の理解のもと夫の家事育児への参加、夫以外の家族や友人、地域に協力してくれる人を見つけておく、さらには、子ども、夫、家族、自分の健康管理や家事育児の負担を軽減する工夫（時間短縮）も大切なのです。